

矢部さん一家が帰郷——歓迎会

八月二十一日、中国残留孤児、矢部良二さん一家の歓迎会が行われ、約七十人が出席して激励しました。

矢部さんは、四月から四か月間、所沢市にある中国帰国孤児定着促進センターで研修を終え、八月から市内での生活が始まりました。

矢部さんは「これまでおおぜいの皆さんから温かい言葉をかけていただき大きな励みになりました。今、自立のため庄瀬の農機具店で働いています。これからよろしくお願いします」と感謝と決意を話していました。



成田さんが優勝——市民カラオケ

八月十七日、産業厚生会館で第三回市民カラオケ大会が開かれ、出場者二十四人が約四百人の聴衆を前に、自慢のどを披露していました。

【入賞者】 優勝(市長賞) 成田憲夫(桜町一) 準優勝(県議会議員賞) 富田辰朗(中之口村) 第三位(市議会議員賞) 瀬賀克己(高井興野) 白根地区公民館長賞 小池稔(村松町) 白根市歌謡会長賞 長谷川誠一(三条市) 白根青年会議所理事長賞 長谷川ハルエ(三条市) 特別賞 山川常三(白根)、高橋安廣(湯東村)



ダイニチ工業が小林小に土俵を寄贈

ダイニチ工業(佐々木文雄社長)から小林小学校へ土俵の寄贈があり、八月二十一日、寄贈式と土俵開きが行われました。

児童を代表して小林淳君がお礼の言葉を述べ、続く土俵開きでは、区長会、地区青少年育成協議会ほか有志から贈られたまわしの披露も兼ねて、児童と父兄代表十人が「ヨイショ」の掛け声とともに土俵入りを行い、土俵を清めた後、初土俵を行いました。

同校では、プール開きが続く喜びとなりました。



新しいふるさとに根付き出した祭り

八月十五日、「大通まつり」が同町内で開かれ、子供みこしに始まり、ピーク時には五百人もの人が夜店、カラオケ大会、民謡流しを楽しみました。

「ふるさとほどこだ」と聞かれると、父母の実家を答える子も多いという大通。この子らの思い出づくりにと、祭りを開くようになって今年で四年目です。今では逆に、祭りに実家の子供を連れてくる人も多いそうです。

実行委員長の矢定二さんは「新興住宅地で、互いが交流していくためには、このような行事を地道に根付かせていかなければ」と話していました。

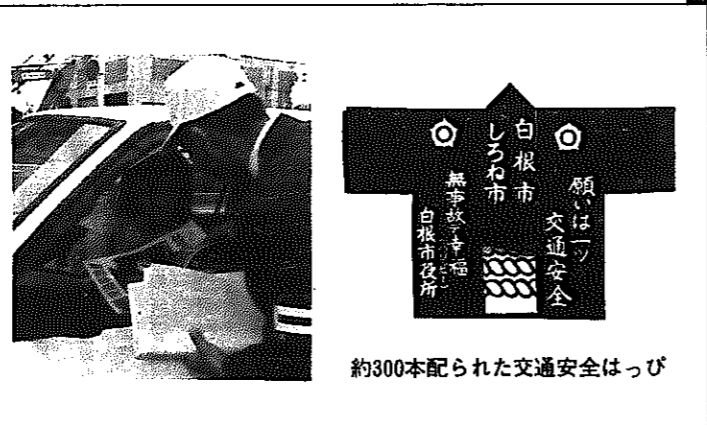


無事故でハッピー——交通指導所

七月二十二日に8号線の下塩俵で、八月四日には丸瀉に交通指導所が設けられ、道行く車に安全運転とシートベルトの着用を呼びかけました。

今回の指導所では、市や白根警察署、安全協会、母の会、安全管理者協会、安全指導員の人たち六十五人が「無事故でハッピー」と、手ぬぐいを折って作った交通安全はっぴもいっしょに配り、運転者らを喜ばせていました。

この間の通行車三百二台中、運転者のシートベルト着用率は一七・二%。そのうち、助手席に同乗者がいたのは七十一台で、その着用率は二一・一%でした。まだまだ割合が低いようです。



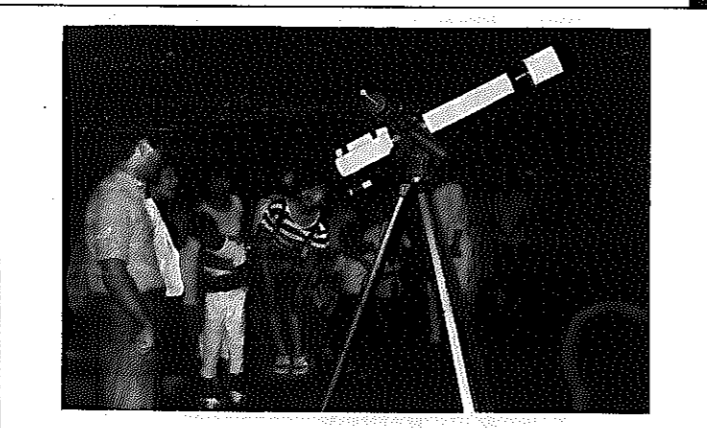
約300本配られた交通安全はっぴ

月、火・木・金星を見る——観察会

八月八日の夜、市役所わきの白根児童公園で開かれた星座観察会に、親子連れなど約八十人が集まりました。星の会(小千田節男会長)のメンバー四人と、白根第一中の江口明先生も応援に駆けつけてきてくれました。

今回は夏の星座の説明を受け、三台の天体望遠鏡で月や、火・木・金星・土星と、たくさんの惑星などを見ました。

「時期的にも幸運だったし、星の会の人々が望遠鏡を持ち寄ってくれたので、いっぺんに見ることができた」と、主催した理科教育センターでは話しています。子供たちには、月のクレーターや土星の輪が好評だったようです。



思いやる心

雨は、あじさいの花の色を変える手品師のようです。季節の折々に咲く花々を見てみると、それが大きい花であれ、小さい花であれ、それぞれに存在の意味があるように思われてなりません。

精神薄弱養護学校に通っているA子さんが茶道を習い始めました。A子さんは奇跡と思われるほどの上達を示し、周りの人々を驚かせました。A子さんは重度のダウン症の障害をもつため、お母さん

が送り迎えや介助をしなければならぬ学できないほどだったからです。

かつて、お母さんが病気で起き上がれなくなって、通学の介助が

思いやる心が咲かせた花

できない時期がありました。その間、お母さんの代役を買って出てA子さんの送り迎えを続けてくれた婦人ボランティアがいました。ある日のことです。A子さんを

銀行に相談し、ボランティアとして登録している茶道の先生を紹介してもらいました。

A子さんに降り注いだ思いやりの「慈雨」

それから茶道の先生とA子さん

は、お茶のけいこに「格闘」しました。そうです。文字どおりの格闘です。

A子さんは辛抱強く、人が一度でやれることを百回やって身に修めていきました。不思議なことに、お母さんが健康を回復して、A子さんと並んでけいこを始めると、習得は二倍の速さとなりました。

胸を張って、自信たっぷりにお茶をたてている娘を見て、お母さんはこれがわが子かと信じられな

いほでした。

A子さんの気持ちを察知して励ました婦人ボランティアの優しさ、根気よく手を添えて指導した茶道



の先生、わが子を思う母心——。周りの人たちの思いやりが慈雨のようにA子さんに降り注いだ時、あじさいの花は見事にその色を変えたのでした。

淑徳短期大学教授。前全国ボランティア活動振興センター所長

木谷 宣弘